

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 永犬丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

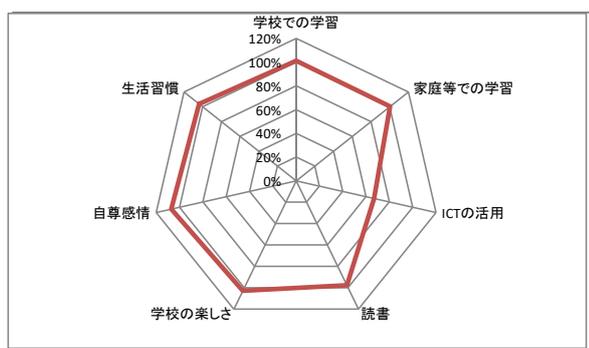
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	ほとんど全ての領域において、正答率が全国平均よりも上回っている。しかし、「読むこと」の領域については、正答率が全国平均・福岡県の平均ともに下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「話し言葉と書き言葉の違いを理解する」問題や「話の中心を捉える」問題の正答率は9割近い。	
	努力が必要な問題	「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」問題や「漢字を書く」問題は正答率が低く、無回答率も高い。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全ての領域において、正答率が全国平均よりも上回っている。しかし、各問題を見ると、「B 図形」と「D データの活用」で全国平均を下回る問題が1つずつあった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「A 式と計算」の基本的な計算問題や「C 変化と関係」の比例の問題の正答率はとても高く、無回答率も低い。	
	努力が必要な問題	「A 式と計算」の応用的な問題や「B 図形」の問題は正答率が少し下がり、無回答率も高い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全ての領域において、正答率が全国平均よりも上回っている。しかし、各問題を見ると、「A区分 粒子を柱とする領域」で全国平均を下回る問題が複数あった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	「実験の過程や結果を記録する」問題や「問題解決の道筋を構想し自分の考えをもつ」問題の正答率は高い。	
	努力が必要な問題	「正しい実験器具の使い方」の問題や「分析し解釈し、自分の考えをもつ」問題は正答率も低く、無回答率も高い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器が学習に役立つと考えている児童は9割を超えている。情報モラル意識をきちんともった上で、正しく活用できるように家庭と協力しながら指導を行っていく必要がある。 2時間以上のテレビゲーム使用は4割超、2時間以上のSNSや動画視聴は3割弱と本校児童のテレビゲームやスマホ・携帯電話の使用時間が課題である。 読書が好きという児童は7割を超えているが、新聞や読書の習慣がある児童は全国平均を下回っている。 将来の夢や希望をもっている児童は8割を超えている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

職員研修を設け、全国学力テストの結果の分析をもとに、全職員で本校児童の課題を周知した。また、どのような問題なのかを実際に解いてみることで、学習の中で活用することを共通理解した。ICTについては、タブレット端末を各教科などの学習の中でもっと活用していけるようにしていきたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「えいのまる生活がんばりカード」に全校で取り組んでいる。家庭での挨拶、お手伝い、ゲームの時間、SNSの取り扱いなどについて児童が保護者の方と一しょに取り組む、励ましてもらうことで自主的な家庭生活の向上を図る為である。また、家庭での学習習慣の定着を図り、学校全体で自主学習の取組を行っている。学期末には自主学習ノート展示会を開き、児童及び保護者が自主学習を見合い家庭学習の取組の向上を図っている。この取組を通して、自主学習のよいイメージをもつことができ、またお互いに切磋琢磨する姿が見られる。